

りたるよし古傳説ありて、久保市の市塵は古き事なるよしなり。されば其の後此の近江町の地に、更に市場を建てたりしゆゑ今市と稱し、遂に一村落とは成りたるならんか。然らば市姫社も其の時代よりの舊社にて、今此の地に魚市を立て、青草辻に青物市をば立てけるも、いにしへ今市村ありし頃よりの名残にてやあらんか。金澤事蹟必録に、近江町は昔山崎村の地にて、今町までかけて山崎町と云ふ。市姫社は山崎明神也。此の山崎村を町地に命ぜられ、其の代地を小立野にて被下。今の山崎領也。とあり。右山崎村山崎明神の事によせて、近江町市姫社の事とするは非なり。又近江町の地を山崎の村地といへるも、附會の説なるべし。

金澤古蹟志卷廿四

城西宗叔町筋

○高岡町

當町は、慶長年中舊藩二世贈正二位大納言利長卿養老附の諸士、越中高岡にて奉仕せしを、故ありて金澤へ歸されしが、其の頃邸地を此の地にて賜はるに依つて、町名を高岡町と呼べり。故に舊藩中は諸士のみ居住せり。

○高岡町來歴

有澤武貞の金澤細見圖譜に云ふ。慶長十年・同十六年兩度に、越中高岡より侍中大・中・小身共引越を仰出さる。利長卿御隠居領廿二萬石之内、十萬石分と六萬石分と兩度に侍中引越仰付られ、此の引越衆の屋敷地を高岡町といふ。とあり。右引越といふは、高岡より金澤へ搬宅するをいへり。諸士言行録には、公致仕領之内十萬石分を返さるゝ時の士町は、今枝民部邊の高岡町なり。又其の後六萬石分返さる

る時の士町は、淺野川沙走邊の高岡町の地と云ふ。とあり。三州志巽彙餘考に云ふ。瑞龍公養老領の内十萬石分を返さるゝは慶長十七年にて、此の時從臣前田美作を始として三十九人、知行高通計十萬五百三十石なり。追つて六萬石分を返さるゝ事は定かならずといへり。平次按ずるに、有澤武貞の古兵談朱書に、慶長十年より御隠居、越中富山御在城、同十四年高岡へ御移り、御隠居知廿二萬石之處、同十六年に六萬石分金澤へ御返にて十六萬石と成るを、其の後又十萬石分金澤へ御返被成、只六萬石御隠居知之處、同十九年之春又五萬石分御返にて、逝去の頃は漸く一萬石程御料也と云傳へたり。と載せたれど、此の説も過聞にやあらん。今枝譜には、慶長十八年癸丑。瑞龍院殿令重直奉仕微妙院殿。瑞龍公御隠居地拾萬石之内。以二萬石令附微妙院殿各反金澤。重直其列也。と見ゆ、成田家記には、駿河御普請すぎ、高岡侍多儀公儀如何と思召候哉。松平伯耆を始として、御隠居衆半分知行高拾萬三千石、金澤へ御返し被成。則成田助九郎も右の内にて、金澤へ引越し、御家督へ奉公す。とあり。右兩家記の趣も、傳説に據つて載せたる